資料５

茅ヶ崎市の“心のバリアフリー推進”について

だれもが安心して過ごせるまちづくりを目指して

～「ありがとう」と「対話・体感（体験）から思いやりの気持ちを」～

令和3年7月5日（月）

茅ヶ崎市　都市部　都市政策課

1 市民部会とは

□目　的　茅ヶ崎市バリアリー基本構想（平成27年9月策定）の実施に係る連絡調整を行うための協議会「茅ヶ崎市バリアフリー基本構想推進協議会」から「心のバリアフリー推進」の取り組みを主に実施する部会

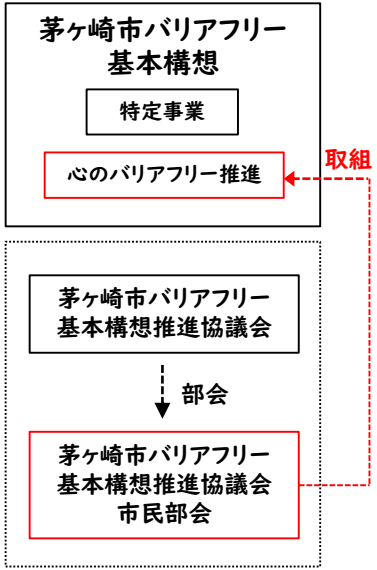
□名　称　茅ヶ崎市バリアフリー基本構想推進協議会市民部会（普及啓発では、「こころのバリアフリー市民部会」として使用）

□設　立　平成28年10月

□部会員　15名（自治会、福祉団体、高齢者団体、障がい者団体、公募市民、学識経験者）

令和3年7月5日現在　市民部会委員名簿（団体区分順）

自治会関係	茅ヶ崎地区まちぢから協議会　会長	河内　昇
福祉関係団体	社会福祉法人茅ヶ崎市社会福祉協議会　事務局長	海野　誠
	茅ヶ崎市民生委員児童委員協議会	遠藤　明子
高齢者関係団体	茅ヶ崎市老人クラブ連合会　相談役	柏崎　周一
障がい者関係団体	茅ヶ崎市身体障害者福祉協会　副理事	太田　克之
	茅ヶ崎手をつなぐ育成会　会長	瀧井　正子
	茅ヶ崎寒川地区自閉症児・者親の会　会長	上杉　桂子
	茅ヶ崎市視覚障害者福祉協会　会長	鈴木　実
	地域生活支援センター元町の家	瀬川　直人
	茅ヶ崎市肢体不自由児者父母の会　副会長	牧野　浩子
	茅ヶ崎市聴覚障害者協会　会計	浅川　晴美
公募市民	公募による市民	杉山　徹
	公募による市民	杜多　美咲
学識経験者	文教大学国際学部国際観光学科　教授	海津　ゆりえ　（副部会長）
	元産業能率大学教授	斉藤　進　（部会長）



※茅ヶ崎市バリアフリー基本構想推進協議会は、以下の委員を加え合計26名で組織
交通事業者（鉄道、バス、タクシー）、道路管理者（国、県、市）、商工会議所、警察、当市行政職員

2 市民部会の活動経緯

年 次	取 組 内 容
平成26年度	・基本構想策定のために協議会及び同会市民部会・同会事業者部会設立 ・ワークショップ（特定事業毎にまち歩き点検の実施）、意見交換
平成27年度	茅ヶ崎市バリアフリー基本構想　策定（9月）
平成28年度	・基本構想実施のために茅ヶ崎市バリアフリー基本構想推進協議会及び同会市民部会設立（10月） ・今後の取組について意見交換、課題の共有
平成29年度	障がい者に対して 外出を促し、交流機会を創出するために・・・
平成30年度	市民に対して 障がい者の声を伝えたい・・・ アンケート調査で障がい者の声や体験の情報を収集 リーフレット（案）作成
令和元年度（平成31年度）	市民に対して 子どもに対して 普及啓発ツール作成 心のバリアフリー教室 市報　ホームページ　デジタルサイネージetc 鶴嶺小学校で開催 連携　相乗効果
令和2～3年度	⇒令和元年度事業の継続・拡大展開

基本構想作成のための取組

バリアフリー化に向けた配慮事項の整理、各事業者との調整をし、基本構想に反映

心のバリアフリー推進取組開始

市民部会に所属する関係団体を対象に実施

市民に伝えるために、発信方法を整理し、失敗を恐れずにできることを！

本日の説明

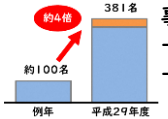
平成28年度から令和元年度までの振り返り

平成28年度～平成29年度

市民部会
イベント等を通じ外出促進
→茅ヶ崎ユニバーサルスポーツフェスティバルへ参加

取組対象 → **障がい者**

当日の参加者



事前周知により参加者増
→障がい者の参加は36名
→困りごとがある方は少なかった

当日の様子

課題
障がい者の外出促進が図れたかが課題

心のバリアフリーは、当事者周囲の者に対する意識の変化では！

取組対象を「障がい者」から「市民」に変えた取組が効果的ではないか。

対象の変更

平成30年度

市民部会
・アンケート調査を通じて多様な障がい特性の声や体験を収集し、リーフレット（案）を作成

取組対象 → **市民**

全体の割合
- 多くの思いやり（共生社会の実現）
- 少しの思いやり（合理的配慮の実施）
- 少しの気配り（障がいに対する理解）
- 少しの意識（障がいに対する気づき）

↑この意識を変え、思いやりを増やしたい

リーフレット（案）

発行前の確認（課題）

多様な障がい特性をまとめた結果、興味や関心が低い市民を対象とするには、情報量が多すぎる

継続的、かつ情報が正確に伝わるための工夫が必要で、その結果心のバリアフリー推進につながるのではないか。

伝え方の工夫

令和元年度

市民への伝え方を工夫

「少しの意識がある市民」を対象に取り組み、その数を増やし、本市バリアフリー底上げへ繋げる

障がい者等困っている人がいたら・・・ → ①困っていることに気づく ②声かけをして、その人が何を求めているか確認 → 求めることがあれば、お手伝いする

興味関心が「ない」又は「少ない」人の意識を、どう動かせるかがポイント！
→抵抗なく目に留まる伝え方が必要、地道に続ける継続性
広く浅く伝える方法を検討

まず取り組む！

発信量が少なく / 簡単・手軽さ / 継続的に目にする機会 / 短時間で理解 / 身近な / 安定した発信 / 繰り返す → 簡単なツール > 発信量が多い資料→リーフレット

令和元年度の取組

③

ある委員の発言から・・・

・机上の議論だけでは普及は進まない
・出来ることからやろう
・失敗を恐れずに!!
⇒次回部会後から始動できるようにする!一歩前進!

年度当初（6月）

リーフレット

誰が、いつ、どこで、何を、どのように

目標に向け、意見交換を重ねながら、具現化を目指す・・・

普及啓発ツール

始動!!

10月以降

素材
・これまでに取得した障がい者の声、体験を活かす
・障がい特性などを限定しない

ツール
・既存媒体を活かし、即効性があるツール
・予算等の影響を受けにくい安定的な発信
・誰もが見る、知ることができるツール

伝え方
・目にする機会を増やす
・手軽（簡単）に読める
・行為（読む、見る）の抵抗を減らす
・不快と感じさせない、肯定的な表現

持続性
・一時的な発信ではなく積み重ねる発信
・発信側も、読み手側も負担にならない手軽さ
・「身近にある」と感じられ距離感が近い内容
・つい見てしまうと思わせる工夫

委員の経験（自転車の安全啓発）から、「ありがとう」の表現が効果的。「・・してください」、「・・はダメ」では効果が上がらず!

「お～いお茶」ペットボトルのラベルに記載している俳句のように「ここにある」と思わせる工夫!

令和2年10月～
デジタルサイネージ（JR茅ケ崎駅）

令和2年11月～
広報紙（欄外）

まずやる!

段階的に・・・
デジタルサイネージ（市役所EVホール）、市ホームページetc

色々やる!

心のバリアフリー推進

心のバリアフリー教室

試行的に・・・
でも本音は継続したい

鶴嶺小学校
総合的学習の時間で主体的な学習
・学校教育目標等を踏まえ、子どもが主体的に学びながら、鶴嶺地区での多様な生活を知る
・気づく、考える、触れ合う、振り返るをキーワードとする
⇒障がい者との交流で鶴嶺地区を元気に!

市民部会
心のバリアフリーの推進
・子どもに与える影響の大きさ
・子どもの気づきをきっかけに家族や社会を変える
⇒障がい者との交流を第一に、対話を重視した教室を展開したい

連携

令和元年度（普及啓発ツール）

④

市広報番組

音声 文字 イラスト

ケーブルテレビの放送に合わせ、市役所１階ロビーでも放映

市ホームページ

音声 文字 イラスト

TOPバナー

市ホームページで展開

心のバリアフリーページ

市民部会の取組や心のバリアフリーに関するホームページを作成

声の広報

音声

視覚障がい者向けの音声による広報紙

公共施設

文字 イラスト

都市政策課窓口カウンター

鶴嶺公民館

広報紙（欄外）

文字

こころのバリアフリー市民部会　誰もが安心して過ごせるまちづくりのために市民の皆さまに「ありがとう」を伝えていきます

「定型の表現」
茅ヶ崎市バリアフリー基本構想《基本理念》

「号毎の表現」
障がい者等の声や体験

こころのバリアフリー　あなたの"ひと言"にありがとう！　まちを歩いていて「あの人、だいじょうぶかな？」と思うことはありませんか。心身に障がいを持つ私たちは1人で出来ないことがたくさんあります。困っている時にあなたの"ひと声"があると、「ありがとう！」の気持ちでいっぱいです。

デジタルサイネージ

文字 イラスト

JR茅ケ崎駅自由通路

茅ヶ崎市役所EVホール

神奈川中央交通バス

ありがとう！の言葉から

多様な情報媒体を活用して自然と目にする機会を増やす

市民部会が発信（障がい者の声・体験を通して）

普及啓発ツール：広報紙（広報ちがさき）

※市民部会で調整

広報紙（欄外）

号毎変更

- 知的障がい
- 障がい全般
- ヘルプマーク
- 身体障がい
- 高齢者
- 視覚障がい
- 子育て
- 聴覚障がい
- 精神障がい
- 内部障がい
- 発達障がい

令和2年 4/15号 障がい全般

ありがとう！手助けを必要とする私から・・・

私は、少し前まで障がいがあることを理由に外出を控えていました。今は、手助けしてくれる人や配慮してくれる人が多くなり、外出する機会が増えました。外出すると、気分が晴れて楽しい気持ちになります。**皆様の気持ちに感謝します！**

令和2年 5/15号 視覚障がい

ありがとう！目の不自由な私から・・・

先日、まちで誘導案内を申し出てくれた方がいました。授業で学んだからと言っていましたが、「あれ」、「これ」と曖昧な言い方ではなく、具体的な説明で声かけをしてくれたのでとても分かりやすく、**安心して歩けました。**また、お会いしたらお願いしたいです。

令和2年 6/1号 聴覚障がい

ありがとう！耳の不自由な私から・・・

私はよくバスを使って買い物に出かけます。先日、バスの案内掲示が見えない席に座ってしまったため、隣の高校生にスマホで筆談し、次の停留所名を訪ねたところ、丁寧に教えてくれました。案内が聞こえないので、**本当に助かりました。**

令和2年 8/1号 知的障がい

ありがとう！知的障がいのある私から・・・

買い物の時にレジでの支払いに時間がかかることがあります。後ろに並んでいる方に「ゆっくりで良いですよ」と声を掛けていただき、安心して支払いをすることができました。**温かく見守ってくれてうれしい気持ちになりました。**

令和2年 10/1号 高齢者

ありがとう！高齢の私から・・・

年齢を重ねるにつれ指の力が弱くなり、瓶や缶の蓋を開けることができない時があります。最初は周りの人に声をかけることを躊躇していましたが、皆さん気持ちよく手伝ってくれます。本当に助かります。**感謝の気持ちでいっぱいです。**

こころのバリアフリー市民部会　誰もが安心して過ごせるまちづくりのために市民の皆さまに「ありがとう」を伝えていきます

市民部会の教室と小学校の補助授業

令和元年度
（心のバリアフリー教室）

⑥
心のバリアフリー普及啓発
・子どもの絵画作品をもとに、「鶴嶺地区」、「市域全体」へ普及啓発の素材として活用

心のバリアフリー教室（障がい者との交流授業）

4年2組・3組

10月31日開催
市職員による教室
・遊びを交え市と児童との距離を縮める
・障がいについて学ぶきっかけつくり

学年授業
・テーマを決定
クラス単位
・障がい者との交流に決定し、どうつながれば良いのか？
→市役所の人に聞こう！

振り返り
・市職員による授業を深めるため、プリント答え確認
次回教室準備
・班編成、ネームカード作成

11月29日開催
障がい者との交流教室①
・自己紹介
・児童と障がい者の対話
・班毎に体験（体感）
・振り返り

宿題
発見カード

振り返り
・発見カードの確認
次回教室開催
・障がい者へのお礼の内容を考える（4～6時間）

1月17日開催
障がい者との交流教室②
・児童からのお礼
・宿題を元に児童と障がい者の対話
・振り返り

次回教室開催
・学習発表会に向けて準備
・パワーポイント作成
・原稿作成

3月6日
学校休業中止
学習発表会
・班毎に発表
・校内に限定せず、保護者、障がい者、市民部会、市を招待し開催

心のバリアフリー教室（茅ヶ崎市社会福祉協議会出前講座活用）

4年1組・4組・5組

1月22日開催
市職員による教室
・遊びを交え市と児童との距離縮める
・障がいについて学ぶきっかけつくり

国語で「だれもが関わり合えるように」（点字）を学習

2月17日開催
市社会福祉協議会の出前講座
・点字に関する国語授業を機に、視覚障がいに関する講話や体験を実施

振り返り、感想交流

市民部会の教室
小学校の補助授業

プログラムの基本方針

子どもが理解しやすい内容にどう落とし込むか

心のバリアフリー

子どもが誤った「障がい理解の考え方」をもたないように配慮
「障がい」又は「障がい者」 ＝ ○○
の方程式を作ってはダメ！
先入観や固定観念を与えない工夫が必要

街なかで障がい者など困っている人がいたら・・・
①困っている人がいることに「気づく」
②声かけをして、その人が「何を求めているか確認」
③困っている人が「求めることがあれば、お手伝いする」
□心のバリアフリーには、決まった答えがなくその場に応じた対応が答えになる
□障がい者全員が常時お手伝いを求めている訳ではない
⇒「気づく」ことが初期段階では大切
⇒この「気づき」には「専門的な知識がない」ではなく相手を思いやる気持ちが大切！！
自分とは違う視点に気づくきっかけから相手の理解を深め、相手の気持ちを素直に受け入れられるのではないか

ノウハウではなく、相手を知ることが大切

繰り返しが理解を深める

・段階的に理解する
・専門的な要素、抽象的な要素を少なくする

体感等を交えイメージしやすい内容

体感（体験）は、子どもが理解しやすい

対話によってお互いの理解を深める

楽しいと感じる工夫

子ども

対話 ＝ 体感

気づき

思いやりの気持ち

《学習目標》

・体の不自由な方との交流を通して、障がいを持つ人への理解を深める
・対話（声かけ）、体験（体感）を通して、「別の視点に気づく」きっかけをつくり、思いやりの気持ちを醸成する

障がい者との交流授業

当日の様子

視覚障がい（誘導体験）

聴覚障がい（手話体験）

身体障がい（対話）

子どもたちの気持ちの変化

障がい者との交流授業（感想カード）から

（回答が多い順に記載）

1回目（11月29日）

- 目が見えない、耳が聞こえない、車いすの生活は、大変、困る、不便
- 交流できて楽しかった、たくさん知れて嬉しい
- 困っている人等がいたら、声をかけたい、助けたい
- 障がいがあっても何もできないことは無いとわかった
- 自分がなったらショックと感じた
- 工夫していることがたくさんある
- 障がい者が〇〇できることを知った
- 障がいがあっても、皆の心は全て一緒と思った

気持ちの変化

（回答が多い順に記載）

2回目（1月17日）

- 困っている人がいたら声をかけたい、助けたい
- 回数を重ねることで楽しい、また話したい
- 目が見えない、耳が聞こえない、車いすの生活は、大変、困る、不便
- 交流で学んだことを活かそうと思う
- 僕が思っていることは大変じゃなかった
- 障がい者が安心して生活できる世の中に

感想カード以外

心のバリアフリー教室中

- 休憩中に、トイレの使い方を学ぶ児童
- 給食中に、配膳や下膳を手伝う児童
- 覚えてきた手話で会話で会話をしようとする児童
- 点字付きトランプゲームで相手に配慮してやり方を変える児童

心のバリアフリー教室外

- 授業の中で「大きく口を開けたり」、「ゆっくり話をしたり」する児童が現れ、他の児童に伝える児童

思いやりの気持ちの醸成

- 継続して交流した結果、相手を知ることができ児童の気持ちに変化

体感（体験）を交えることで理解度が高まる

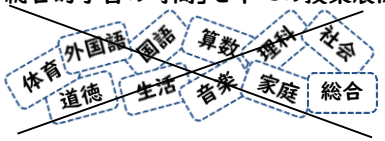
- 相手を知るには対話が重要で、体感を交えることで子どもの理解が深まる

（参考）心のバリアフリー教室開催に至るまで①

茅ヶ崎市立鶴嶺小学校 ⇒ 総合的学習の時間を通じ子どもたちが主体的な学習を

総合的学習の時間のあり方

・教科毎の独立した授業展開ではなく、「総合的学習の時間」を中心の授業展開



・子どもが、主体的に楽しく学ぶ

自分たちの疑問を解決することの楽しさ

総合的学習の時間のテーマときっかけ

・教育の目標

未来に向かって伸びる鶴嶺の子

・学年目標

チャレンジ・パワー

学年授業で総合的学習の時間のテーマをみんなで考える

テーマ

鶴嶺地区の人々を元気に

どんな人が生活し、どんな施設があるのか

きっかけ

人：高齢者、障がい者、赤ちゃん・・・ etc

施設：高齢者施設、障がい者施設・・・etc

学習のキーワード

「鶴嶺地区の連携」、「人々を元気に」に繋がる学習とし、次のキーワードを含む学習内容とする

- ①気づく
- ②考える
- ③触れ合う
- ④振り返る

実施に向けた調整

どう進める？

・受け入れ側の気持ちを考え、学級単位で調整
　①高齢者
　②保育児
　③障がい者
・4年2組、3組は③障がい者を元気に!!

市役所に相談してみよう

令和元年9月に相談
過去に公共交通（バス）に関する事業を協働で実施した経緯があり、当時の市担当者に相談

（参考）心のバリアフリー教室開催に至るまで②

令和元年9月

嬉しい相談

鶴嶺小学校から市に相談

10月から
毎月1回ペースで障がい者と交流し、「鶴嶺地区を元気にしたい」が、協力してもらえないか。
もしくは
福祉関係の部署を紹介してもらえないか。

市民部会事務局（市）

チャンス到来

市民部会では、学校での教室展開について意見があり、様子を伺っていた

学校での教室開催について

・市民部会委員の多くは、所属する団体や本市社会福祉協議会の活動を通じて小中学校で授業を行い、その必要性を感じていた

教育現場で実施する難しさ

・市民部会の委員の中には、所属する団体の活動で教室開催を目指すも、実施が難しい印象を受けていた
・各教科の履修時間が決まり、授業の編成権なども重なり、様々な調整が学校側と必要でその難しさを感じていた

市民部会の状況

・学校で心のバリアフリー推進に関する教室を開催したいという想いだけで、令和元年度当初までは本格的な検討を行っていない状況であった

令和元年10月

前向きに！

市民部会で提案

□突然の話で・・・
委員にも戸惑いがあった

プログラムがない中、どう進めるのか？

卍学校側からの授業要望は願ってもない機会、この機会を活かそう！！

11月からの交流教室開催を目指す

□プログラム作成
□教室協力者の調整開始

プログラムは、心のバリアフリー推進に繋がる内容とする

□市民部会、学校側ともに初めての試み、お互いが協力して取り組む

一歩前進！機運を高める！

学校へ心のバリアフリー教室を提案

実施！！

「市民部会」と「鶴嶺小学校」が協力して教室開催に合意

プログラム検討へ

令和2年度～令和3年度の取組

⑬

▼令和2年8月　▼令和3年7月

	令和2年度	令和3年度	令和4年度～
普及啓発ツール	継続　広報ちがさき、デジタルサイネージなど		基本構想の改訂（特定事業との連携）
	展開　特定事業との連携（民間商業施設、駅、道路）	取組の転換期	
	様々な意見	検討中　新たな取組（10月再始動）	
心のバリアフリー教室	・学習指導要領の改訂 →総合的な学習の時間⇒道徳 ・コロナ禍での授業展開方を模索 →いかに子どもの理解を深めるか 継続　4年生道徳	継続　・4年生道徳 ・5年生国語	
	動画作成　視覚障がい者の日常　点字による手紙でお礼		
	継続　小学校で展開しやすいプログラム作成（市民部会・小学校・市）（令和3年度中に教員向けの勉強会で本教室を紹介予定）	展開　令和4年度実施校拡大へ向けた準備	

新型コロナウイルスの影響により
市の総合計画の始期が
令和3年度→令和5年度　延伸
⇒次期茅ヶ崎市バリアフリー基本構想
　の始期を令和5年度に変更

心のバリアフリー教室（令和2年度～令和3年度）

鶴嶺小4年

2月開催

市職員による教室
・遊びを交え市と児童との距離を縮める
・障がいについて学ぶきっかけつくり

授業（きっかけ）
・道徳
（単元：思いやりの醸成）
児童が電車の車内で視覚 障がい者に気づき、駅に到着後、声かけをする描写

3月開催

視覚障がい者の日常（動画）
・日常生活の様子
・移動時の様子
・仕事をしている様子

授業
・動画撮影に協力した方に向け点字器を使いメッセージ作成
・感想カード作成

令和3年度
【4年生：道徳】
・7月から教室を開始
→連続性のある教室を展開
（詳細は調整中）
【5年生：国語】
・地域の人にインタビュー、報告書にまとめる
→（詳細は調整中）

市・市民部会の教室
小学校の補助授業

視覚障がい者の日常（動画）